

Title	芸文研究既刊総目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学藝文学会
Publication year	1961
Jtitle	藝文研究 (The geibun-kenkyu : journal of arts and letters). Vol.13, (1961. 12) ,p.147- 150
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00072643-00130001-0147

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

芸文研究 既刊総目次

◆第一号 (一九五一年) 美術学特集

創刊の辞	西脇 順三郎
ミケルアンジェロの聖母	守屋 謙二
光琳肖像考	菅沼 貞三
江戸板木絵第一回の開花期	汲 井 清
播磨国常福寺裏山経塚出土品に縁って	保坂 三郎
大仏師康助の遺作に就いて	岡 直 己
Palazzo Pitti—その原作者の問題について—	相内 武千雄

彙報

◆第二号 (一九五二—三年)

物語の成長—宇津保物語の場合	池田 弥三郎
俳諧月花の座	清崎 敏郎
ジョン・セルデンのこと—その「茶話」をめぐって	藤 井 昇
ジュリアン・グリーンの内心の旅路	佐 分 純 一
ブッデンブローク以前	江沢 建之助

西ドイツ文学活動の展望……………田中次郎

彙報

◆第三号 (一九五四年)

実用の文学—女と花	森 武之助
住吉物語以後—継子奇め譚の類型に関する一考察	松本 隆信
聊斎志異研究序説—特に蒲松齡の執筆態度に就いて—	藤田 祐賢
General Tradition の崩壊	安原 基輔
アンドレ・マルロオの「孤独」	大浜 甫
北野天神縁起絵巻の諸特徴	八代 修次
クライストの悲劇性	高橋 文雄

彙報

◆第四号 (一九五五年)

伝統の周囲—芭蕉・西鶴—	森 武之助
寺院僧侶の國典研究—主として中世をとりあげて—	佐佐木 一雄
曾我物語伝承論	塚崎 進
紅樓夢の小説性—周汝晶の「紅樓夢新証」をめぐって—	村松 暎

若きヘッセの人生態度乃至世界観……………井手 貴夫

反抗と絶望の黒人作家——Richard Wright——

……………安原 基輔

現代英文法の諸傾向——特に口語法について——

……………原 沢 正喜

折口信夫教授講義題目

慶応義塾大学所蔵聊斎志異関係資料目録

彙報

◇第五号 (一九五五年)

好色五人女——成立をめぐる試論……………松谷 昭彦

近松世話物の考察(序)……………鈴木 昇

曾我物語伝承論——その二……………塚崎 進

紅樓夢論争に対する批判……………村松 暎

トーマス・マンのゲーテ観——「ヴァイマルのロ

ッテ」を中心として……………小名木 栄三郎

対話文学としての「ラモアの甥」——デイドロ研

究序説……………原 宏

資料紹介——「東洋之佳人」稿本、「絵入読本外

題作者画工書牌名目集」写本……………森 武之助

彙報

◇第六号 (一九五六年)

明恵上人説話考

稿本聊斎志異考勘記

曾國藩について

中国に於ける品詞分類の標記について——

『漢語詞类論争』の問題点

シユリーにおける神の問題

リルケ文学解明におけるハイデッガーの誤謬

アルベール・カミュの思想と風土について(ジャ

ン・グルニエとの比較による一考察)……………片桐 邦 郎

彙報

◇第七号 (一九五七年)

野守鏡にみられる宗教性……………佐佐木 一 雄

おせんとおさん——西鶴の場合……………竹 重 信 幸

ヘルマン・ヘッセに於ける東洋思想概観……………飯 田 国 男

アンドレ・ジッド「ユリアンの旅」の成立につ

て……………若 林 真

ラシーヌの“La Thebaide ou Les freres ennemis”

について……………佐 藤 真

イエイツと能・序説“*At the Hawk's Well*”

「The Only Jealousy of Emer」について

考察を中心として……………石橋 裕

曾國藩と俗文学……………佐藤 一郎

Plautus における感嘆及び疑問の ut + 直説法又は……………藤井 昇

接統法の使用について……………藤井 昇

資料紹介——炎涼岸・女開科伝・知不足斎原本批……………藤田 祐賢

点聊斎志異……………藤田 祐賢

書評——Erwin Panofsky's 'Early Netherlandish Painting——its origins and character'……………八代 修次

彙報……………八代 修次

◆第八号 (一九五八年) 慶応義塾創立百年記念……………香川 景松

小沢蘆菴論……………西村 亨

源氏物語における「いろいろのみ」の概念……………仲井 幸二郎

もうひとつの忠臣蔵——四谷怪談考……………伊藤 香夫

伊勢物語真名本に就いて……………伊藤 香夫

内部の論理——ロマン主義詩学の興起にかんする……………由良 君美

一考察……………由良 君美

シエクスピア喜劇に於ける扮装……………鈴木 周二

バルザック「ルイ・ランベール」について……………高山 鉄男

彙報……………高山 鉄男

「ブルネレスキの穹窿」……………相内 武千雄

浮彫の種類について……………海津 忠雄

ツァワン著聖成吉思可汗の金言……………田中 市郎衛門

彙報……………田中 市郎衛門

◆第九号 (一九五九年)

『太平記』作者の思想——「北野参詣人政道雑談事」……………長谷川 端

に現われた政道観について……………長谷川 端

△把「Pa」△を含む形式について——その統辞論的……………川本 邦衛

分析……………川本 邦衛

ジョン・ダンの「The Exstic」——詩の構造に……………和田 且

関する一考察……………和田 且

絶対詩の課題の一つ——ヴァレリ・ゲオルゲ・ベ……………和 田 且

ン……………深 田 甫

ジュラル・ド・ネルヴァルに於ける「自然」の……………深 田 甫

イマージュに就いて……………小 浜 俊 郎

Malory の 'The Tale of the Morte Arthur'……………小 浜 俊 郎

の言語について——Malory の英語の成長と体……………小 川 繁 司

系……………小 川 繁 司

The Book of the Duchess に関する一考察……………小長谷 弥高

彙報……………小長谷 弥高

◆第十号 (一九六〇年)

- 日本霊異記下巻第三十八縁に就て……………福島行一
- 浜松中納言物語に於ける唐土の問題……………池田利夫
- 列女説話の伝承について……………林 恵一
- 『老水夫』のモラルと『千一夜物語』の寓喩……………由良君美
- クルト・マイによる『マイスターの修業時代』解
- 釈の問題点について……………猿 田 恵
- 『おかしまに』とポール・ヴァレリー……………山 田 直

◆第十一号 (一九六一年)

- 再び Palazzo Pitti について……………相内 武千雄
- 東海道四谷怪談と南北……………寺崎 初雄
- 「まほし」の性格につきての一考……………武井 睦雄
- とくに「まくほし」との対比において——
- 戸田茂睡の系族……………戸 田 勝久
- 詞 品 論 攷——Three Ranks 採用の可否に
- ついて……………川 本 邦 衛
- 「アッケルマン」の周辺……………尾崎 盛景
- 実存主義の歩み——サルトル作「アルトナの幽閉
- 者」をめぐって……………永戸 多喜雄

上田秋成の美意識について……………藤江 正通

The Green Knight と The Beheading Game——

中世ロマネスク文学の構成……………池上 忠弘

乗 報

◆第十二号 (一九六一年)

- 「大」……………塚 越 敏
- 鉄輪考……………長尾 一雄
- 藤原定家の和歌——価値観の変遷と歌風の変遷を
- めぐる一考察……………馬場 邦夫
- 「日本霊異記」に於ける訓釈に就いて……………中村 英子
- 方苞の散文——その形式をめぐって……………佐藤 一郎
- 「タンホイザー」に関する若干の基礎的事項につ
- いて……………荒井 秀直

乗 報

- ハイソリヒ・フォン・シュタインの美学的思想……………高 橋 巖
- ブルーストの文体における「比較」について……………岡本 善孝
- 現代英語の特質と諸問題——Ernst Leisi の方法
- 論……………安東 伸介

・第一号と第十二号の購入御希望の方は、本会事務所に御照会をこ
う。(各定価二〇〇円、但し九号三〇〇円、十号より一五〇円)